

客中の作（李白）

蘭陵美酒鬱金香 玉椀盛来琥珀光
但使主人能醉客 不知何處是他郷

蘭陵らんりょうの美酒びしゆ鬱金香うつこんこう

解説 他郷にあつての感懐を述べたもの。李白が長安を追放され、山東地方を放浪していたころの作品とみられている。

玉椀ぎよくわん盛りも来るきた琥珀こはくの光ひかり

語釈 ※客中Ⅱ旅の途中。 ※蘭陵Ⅱ地名、美酒の産地。
※鬱金香Ⅱ西域に産するうつこん草から取った香料。
これで酒に香をつける。 ※玉椀Ⅱ美しい杯。
※琥珀Ⅱ酒の色を美しくいったもの。琥珀色。
※主人Ⅱ宿のあるじ。 ※客Ⅱ旅人。李白さす。

但主人ただしゅじんをして能くよく客をかく酔わしめばよ

通釈 蘭陵のうま酒は、鬱金香のような芳香を放つて
いる。美しき杯にもれば、琥珀色に光り輝く。ただ、
この宿屋のあるじが、旅人の私を十分に酔わせてくれ
さえすれば、いったい、どこが他郷なのであろうか。
故郷にいるのと少しも変わりはない。

知らず何れの処か是れ他郷